

保育案

—夏の講習の速記—

倉 橋 惣 三

一 保育案の變遷

- (一) 保育案問題のない時代
- (二) 保育案が起つて來る
- (三) 中心統合保育案
- (四) 自由遊戯保育案
- (五) 生産保育案
- (六) コンダクトカリキュラム

二 保育案の立て方

私の本年の問題は「保育案」云ふ事になつて居ります。保育案の問題は幼稚園に於きまして極く大切な事であり、皆様も色々御苦心になつて居る事と思ひますが、今迄もいろいろの場合に於きまして、保育案單獨の題目ではなくとも、屢此の問題に觸れましてお話を申上げました。今回はそれを少しまゝお話ししたいと思ふのであります。

其處で第一の問題としては、保育案に對する色々の苦勞を言ひますか、研究を言ひますか、試みを言ひますか、保育案云ふものに就て從來、或は今日、色々の考へが行はれてゐます。其事に就て先づ一互り辿つて置き度いと思ふのであり

- (一) 保育案と自由遊戯
- (二) 保育案と實際生活
- (三) 純生活指導から設定保育へ
- (四) 期待效果に就て
- (五) 誘導保育案
- (六) 課程保育案
- (七) 結 語

○參照 日本幼稚園協會編「系統的保育案の實際」

一 保育案の變遷

(一) 保育案問題のない時代

一體この保育案云ふ事は幼稚園の保育に於て、何う云ふ所から苦心され始めたものでせうか。極く初期の時代に於ては餘り問題になつて居なかつたのではないかと思はれます。フレーベル自身、又其後各地に出來ました幼稚園に於ても、勿論色々立案された事はありませうけれども、今日言ふ様な特別な問題としては、苦勞されて居なかつたのではないかと察せられるのであります。之には別に昔は保育案を苦勞しなかつた云ふ事が書いたものがある譯でもありませんけれども、餘りさう云ふ論が出てゐないのであります。即ち幼稚園の事を書きました古い本では今日言ふ所の幼稚園の目的や原理や保育項目その方法云ふ様な事が主に論ぜられて居りまして、保育案云ふ事は餘り書いてありません。之には昔の人がさう云ふ事に就て不用意であつた云ふよりも、別の理由が考へられるのであります。

その理由も色々ありませうが、一つは昔の幼稚園云ふものが極めて規模の小さいものであつた云ふ事が一つであります。幼児の数が少なかつた。その小さい幼稚園に於きましては、先生は別に際立つた立案を用意する事なく、何ミか——何ミかではない、恐らく相當旨く——一日が経過されたてありませう。それから第二の理由としてはフレーベルの残しました方法、即ち今日言ひます所の恩物であるミカ、或は「母ミ子の遊び歌」であるミカ、所謂フレーベルの傳統を其儘、機械的にやつて居りました。此のフレーベルのやり方を傳統的にやつて居つた事がいゝか悪いか云ふ問題は兎に角、傳統的ですから立案の苦勞もいらなかつたのです。即ち保育は斯う云ふ事をするんだ云ふ一つの型を子供の方に持つて行

き、極端に言へば子供の方に押付けて行くだけで、済ましたのです。即ち子供の方の事を餘り苦勞しなかつたのです。フレール自身は申す迄もなく子供の方をよく考へ又味はつてその方法が出来て居るのであります。けれどもそれから後の先生は親譲りのやり方であつた。しかも、本當の保育云ふものは子供に保育目的の間に挾つて苦勞する所に行はれて來るのであります。皆様の如き幼稚園實際家云ふものは幼稚園の目的に子供の生活そのもの、間に挾つていつも苦勞してお在でになる。中には餘り苦勞なさらぬ、少しも板挟みにならないで私のやうに肥つてお在でになる方もありますが、實際は兩方からギリ／＼に攻め付けられて瘠せる思ひをなさるのが皆様のお役目である。それをフレール先生が斯うやつて居られたから斯うやる云ふ事でやつて行きます場合は、極く素直に言ひますか、樂々して居る言ひませうか、兎に角く子供の方を考へませぬから其處で保育案が問題になつて來ない。幼稚園は斯くの如きものである云ふ定りをやつて居るだけで、保育案の研究がないのであります。之も一つの理由ではないかと思ひます。

それから第三の理由に考へられますものは、今度は子供の方を見るのではなく、子供の生活を見て居ります云ふ云ふ、實に氣樂で面白可笑しく其日を過して居る。其處でその子供の生活があつて云ふ氣樂な、水の流るゝ如く風の動く如く自在に流通して居るものでありますから、それを保育して行くにはその流通の中で、然るべく行當りばつたりでいゝんだ、と言つた様な心持です。誰も少し考へのある人が自分のする事を行當りばつたりでいゝと思ふ筈はないのであります。苟くも保姆先生云ふ様な方が行當りばつたり云ふ様な事で自分の仕事をやつて氣が濟む筈がないのであります。何分にも相手の子供があつた通り一寸見るに行當りばつたりで暮して居る様に見える。即ち偶然生活の連續に言ひますか、さう云ふ風に見えるものでありますから、相手があんなに偶然なならば此方も偶然でいゝんじやないか、云ふ様な考へ方、考へ方云ふよりも心持ちであります。妙な例でありますが所謂漫談云ふものがありますけれども漫談云ふ事は

聞く人が漫然として居る時に漫談をするので、私も若しも皆さんが漫然として聞いて居て下さるならば、気が向けば聞く：気が向かなければ眠る：或は外の事を考へる：「それはさう此雨は何うなるだらう」云、私の話とは別に連絡のない態度でお聞きになる云すれば、此方も漫然たる態度でやつて行けば宜しい。皆さんがチャンとお聞き下さる云ふので仕方なく私も順序立ててお話しします。聞く方が順序立てるから言ふ方も順序立てる。それと同じ様に幼稚園の子供が如何にも漫然たる態度で暮して居る云ふ所から保育のやり方云ふものは全然漫然たる態度でやつて行けばいゝんだ。スーッとして行つて、其のあきは其の時の風の吹廻し次第。それでも別に濟まぬ譯でもなし、此方も氣も咎めないしそれで一日々々が濟んで行くんだ。こんな風な考へ方々が保育案云ふものを考へさせなかつた第二の理由が云思ふのであります。云ころでこの漫然たるものに向つて漫然たる態度でやつて行く云ふ無案保育云ふものはその實際に於きましては必ずしも悪い云は限らない。恐らく世の中に一番危険なるものが偶然であつて、一番いゝものも亦偶然の中にあるかも知れない。人間の思案してやつたなんて事はそんなにいゝ事もありませぬが、そんなに悪い事もない。そんなにへまな事もないが非常にいゝ事も少ない。人間の考へた事云ふものは大體いゝにつけ悪いにつけ底の知れたものであります。云ころがブラッとして行つて漫然たる子供に漫然としてやつて行く時はこんな素的な思ひ掛けないゝ事が出来るかも知れません。天才保育云でも言ふものですか。皆様の中には天才保育を以て任じていらつしやる方も尠なくない云思ふのであります。「なまじつか考へたのではないわよ」「考へない方が案外行くわよ」云ふ様な事で自己を以て天才に任じていらつしやる方もあるかも知れない。ですから昔の方が子供の生活に則して漫然保育案無しでやつて居つた時に、その實際が一夕悉く悪かつた云きまつた云ではありません。事實子供の数が少い場合に於きましては、それでも却てよい事が行はれたであらう云思ふのであります。そこで保育案が無かつた時代の保育は悉く悪かつた云申して居るのでは決してな

いので、保育案が無かつた時代にはそんな理由で無かつたらうに横から眺めて見るだけであります。

(二) 保育案が起つて来る

ところが之に對して保育案云ふものが段々に必要になつて來まして、必要に感ぜられて來ました。皆さんの中にも口を聞けば保育案を何うしたらいいか云ふ事ばかり考へて在らつしやる方もあるかも知れません。ところが、夫れ程保育案の必要をお考になつていらつしやる方に、少々皮肉な言ひ方の様であります。何故貴女はそんなに保育案を必要とお考へになりますか。こお尋ねして見たら、黙して答へが出来ない方があるかも知れませぬ。黙して答へず云ふ事は餘り失禮な事を言ふミツンミ横をお向きになるのかも知れません。又、「保育案無しに濟むなら、之に越した事は無いが『保育案々々々』」皆んなが言ふから私も『保育案々々々』云ふのである。「幼稚園協會で何だか『保育案』云ふ薄つぺらなものを出して皆んながそれを見て居るから流行の浴衣と一緒に、値段も丁度同なし位だから買つて見た」ミ斯う言ふ様な方もあるかも知れない。又中には、御自身保育案の必要を少しも痛感なさらないで、「さう、その案でやるの」なんて言つて人の保育案を一寸寫して見たりして「之でやつておきやあい」のね」云ふ様なあつさりした方もあるかも知れません。しかし、私は保育案の善惡、つまり云ふ保育案によるべきか云ふよりも、何故保育案云ふものが必要なのか、云ふ事の方が先づ先きの問題ではないでせうか。そこで「何故保育案が必要なのか」云ふ事を理論的に論じてゆくのもいゝでせうが、それよりも先づ「何故保育案云ふものが段々求められる様になつて來たか」云ふ事實に就て、その來歴を辿りながら此の問題を考へるのも意味のある事ではないかと思ふのであります。

(三) 中心統合保育案

さて、私達の知つて居ります限りでは、保育案云ふものが初めて一つのしつかりした問題にされましたのは、アメリカに於いてヘルバルトの教育學説が幼稚園の方に影響をした頃からであると思へるのであります。勿論その以前にもそれぞれの保姆さんがそれらの保育案を御自身の問題として考へては居られたでせうし、書付けたり覺えを自分の机の前に貼つておいたりされたことはあると思ひますが、幼稚園教育界の一つの問題になる様になりましたのは、ヘルバルトの影響以後の事に見られるのであります。

御承知の様にヘルバルトの教育に及ぼしました顯著なる點は教育の方法云ふものを確かりました秩序立つたものに仕上げた云ふ手柄であります。一般教育學の方で教授法云ふ様なものが大變に克明な順序を以て考へられる様になりましたのはヘルバルトの影響であります。即ちヘルバルトはキッチンくとした形を教育に與へたのであります。このキッチンとした形を與へた、丁度茶をたてます立前が斯うしてくくく云ふ順序、あしなくたつて幾らも茶の立て方があると思ひますが、あ云ふ様にやればちやん順序よく行く後の人が決める様になりました。その様に教育云ふものを方法的に組織立て、來たのであります。この組織立てた云ふ事が教育の上に非常な進歩を與へたことは確かであります。しかし又多少の害もしました。そのヘルバルトが教育の上に與へました長所、之を非常に禮讚しました時代があつたのであります。その中の一つとして中心統合主義云ふやり方が一般教育の方で大に流行しました。

此中心統合主義云ふものは昔、教育學を學ぶ人は誰でも學んだのであります。今日では皆さんはそんな事は餘り御聞きになつたことのない方が多いかと思ひますが、學校教育に於いて、あの色々の教科の教材云ふものを、何かある一つ

の中心に向つて統合して行く云ふやり方であります。學校で教へられます所の澤山の教材がバラ／＼になつて居てはいかん。之を何さか統合したい。纏め度いと思ふのです。纏めるに就ては互の間にそれ／＼連絡をつけるだけでも多少いゝでせうが、ヘルバルトは一層之をガツチリした纏め方にしたいとして、或る中心教材に向つて統合させようとしたのであります。さてその中心には何課をするか、ヘルバルトとしては凡ゆる知識の中で倫理的の知識が教育上一番大事なものであるに考へてゐますので、統合の中心にも修身課を用ゐました。即ちその中心の教材へ他の教材を―丁度太陽系に於ける中心へ色んな星が惹付けられて居ります様に―惹付けさせよう斯う考へた。従つて形をしましては、ある知識へ他の一切の知識が統合せられるといふ組織になつて居るのであります。このヘルバルトの中心統合主義云ふものは實に非常な勢力を以て全世界に普及致しました。其時の世界中の教育者の心持を私は察して見ますと、斯う云ふ氣持じやなかつたらうかと思ふ。吾等は今迄色々の知識を子供に授けて居つた。併しながら如何にも雜然として居つた。全く非系統的漫然たるものであつた。之は甚だ―その次の言葉が大事なのであります―、甚だ物足りない事であつたと思つた。然るに此處に萬有百科の知識を子供に授けるに就て、一つ／＼中心に統合して授ける云ふ方法が示された。之はわれわれに今まで物足りなかつた事を物足りさせたのである。物足りさせるなんて言葉は日本語にも何處の言葉にもありませんが、之にかく斯う云ふ感じがしたと思ひます。ところで、それはたゞ氣もちですが、私はそれをもう一つ斯う云ふ風に解釋する。教育云ふ事は本當は相手の爲にして居る。言ふ迄もありません。皆様大教育者のお揃ひであります。毎日やつていらつしやる保育全體云ふものを自分の爲にしていらつしやる方はないと思ふのであります。中には健康の爲に一寸幼稚園に行つて來る云ふ方もあるかも知れませぬが、何處迄も教育云ふものは相手の爲にやつて居るのである。之は言ふ迄もありません。併乍ら教育も又人間のして居る事であります限りに於ては、他のためにしながらも自己の手應

へを求め度いのが通有であると思ひます。私は餘りに人に擲なられた事はありませんけれども、擲るこ云ふのは相手を擲る事でありませぬ。けれども時々非常な力でもつて、そんなに力を出さなくも宜からうと思ふ程擲つて居る人を見ますこ、相手に對して擲つて居るのだらうか、擲り加減こ云ふものを自己に感じさせて居るのかと思つたりします。又私はさう人に可愛がられた事もないと言ひますこ、可愛がつて呉れた人に對して相濟みませんけれども、その可愛がつて呉れる人が、私を可愛がつて呉れるばかりでなく、私を可愛がる事を自己に感じる様にやつて居る様に思ふ事もあります。私此處で講義をして居りますのは皆さんに講義をして居るのである事は勿論、私は今朝随分天候が悪うございましたから、今日は皆さんお休みかと思ひ、さうしたら私も休まうと思つた。皆さんがお休みの時に之れ（マイクロフォン）に向つて頻に「アー」なんてやる事は……。一々委しくいふまでもなく、皆さんにお話をして居るんですがその實、相當私は私に話をして居る事を見逃し得ません。皆さんへ話して居るんですけれども皆さんにお解り願へばいゝだけじやなくて自分にこつて心ゆくばかり話したがつてゐる點は可成ある。「もういゝこ仰有つても、もう一言言はして下さいこ言つたりする。斯う云ふ風に、人間のする事は相手の爲にする事でありながら併し自分の爲にする事でもあります。教育こ云ふものも人間にして居ります事であつた限り、相手の爲にして居る事でもありますこ共に、自己への手應へこ云ふ事を大變求めるのであります。その程度は性分により多少の違ひはありませぬが、中には非常に強く自己徹底を求める性分の人もありませぬ。

そこで、ヘルバルトが教育の方法を斯う云ふ風に組織立てたのであります。之は相手の爲にさう云ふ風に組織立てたに相違ない。相手に教育がよく徹底する爲に教授段階を立て、教材の中心統合主義を考へたに相違ありませぬけれども、ヘルバルトは——頭のいゝ人の常にやりさうな事でありまして、——相手の爲になつて居る筈だ、こ云ふ事は自己を大に物足りさせるのだこ斯うも言へると思ふ。ペスタロッチなこになりますこ、そんな小さな物足り方を求めずに、子供に向つ

てジツト黙つて居ても、子供に解ればいゝ様なやり方をやつて居つたのでありますが、ヘルバルトはさう云ふ自己への徹底がほしかつたのだこもいへませう。

其處で子供の方から言へば——此處が大事な事であります——之を之で與へ、之を之で教へられて平然として居る。朝顔の話聞いて、其次に花火の話聞き、その次に箱の話聞いて別に矛盾も何にも感じない。朝顔は朝顔、花火は花火で濟んで居る。所が先生の方が頭がいゝ爲に、その朝顔と花火と箱とを何と斯う纏まりを付けなければ自分の頭が承知しない。つまり三題漸に仕組みあげないで物足りない。其處で今、朝顔の話、花火の話、箱の話、共に開くものである、何か何と云つて纏まりをつけようとするのであります。しかも、いづれも開くものであるぞ、と言つたつて朝顔は朝顔、花火は花火、箱は箱なんです、此方だけのシステムが立つて居るような氣がする。此方の満足がある。この中心統合主義はヘルバルトの様な偉い頭にまつて非常に溜飲の下る事であるに相違ない。このやり方を教へられた世界教育者が——何かに實はそれ／＼餘りいゝ頭じゃなくて長い間、星は星、花火は花火、朝顔は朝顔と子供同様にやつて居た人なんですけれども——此頭のいゝ人の話を聞きます、即ち此處迄組織立てられて見る、今迄やつて居た事が物足りなくなつて来る。其處でヘルバルトのこの考に教育界全體が支配されて、實にまあ凡ゆる教科をこんな風に組織立てたのであります。之が幼稚園の方へも影響して來ました。私は小學校でさへも餘りに之はわざ／＼しき組織立て方だ感ずるんですけれども、せめて小學校の所ならば未だ宜かつたと思ひますが、幼稚園迄もつて來て了つたので困る。其處でアメリカの幼稚園教育者がヘルバルトの影響で中心統合主義保育案と云ふものを作り出したのであります。この中心統合主義保育案と云ふものを説きまして何處の幼稚園でもさう云ふ事をやり出した。今迄は子供の其時の興味に懇へ、其子の興味に懇へて保育をして居つた人が、新たにこの組織興味によつて保育をする様になつたのであります。さて、この中心統合主義保

育案云ふものを此處で全體的に批評しようとは思ひませぬが、斯う云ふ事だけ茲で見度い。即ち幼稚園の先生が漫然と其時の興味に即してやつて居つたのが、何か其所に或立案的なものがあつたならば……考へ出した事はこの新保育案の功績であります。保育案としての内容の功績じやない。斯う云ふ事を考へさせ出して來たこの功績であります。けれども、漫然はいかぬ考へたのに對して、漫然の反對は何でもかんでも中心統合主義だに一つに固めて了つたのは、誠に頑固な狹隘な話であります。ですからこの中心統合主義云ふものは斯う云ふ風な事を氣にし始めさせた事に就て非常に手柄があり、それに拘泥させて來た事には非常な弊害が伴つたのであります。その中心統合主義がさう云ふ風な意味で一時期非常に行はれて、保育案と言へば盡くこれであつた時代もあるのであります。所がこの中心統合主義保育案云ふものは今日では皆様が直にお心付きになります如く、組織は理想的には大變うまく行つて居りますけれども、これ／＼の一つ一つ云ふものは實に獨立性を失つて了ふ。子供が自由なる生活を、あの新鮮なる興味を以てやつて居ります。その一つ一つの興味に就て少しも認めなくなつて了ふ譯であります。但し、昨晚一昨晚あたりは、色々な事は一切大事じやないのでありまして、なんでも皆防空へ統合して居る。防空に關係のある事であれば問題でないのであります。或は何か身體の悪い人が養生で物を食つて居る云ふ時には矢張り斯う云ふ形になります。何を食ふにしても胃の爲になるか云ふ事で、汁粉を見ても胃袋に統合させぬから食ひたくない。そんな不味いものでも、胃の爲にいつから食べたい。斯う云ふ事になるのでありまして、統合そのここにも理窟はあるが、一つ／＼の興味としては獨立の自由云ふものが無視されつちまふ。即ち、先生の組織慾に對しては誠に大きな満足を興へるでありませうが、子供の自然なる生活に對して、果して適切であるか云ふ事は疑問であります。そこで中心統合主義云ふものが、若しも、餘り強烈でなく、餘りいつ／＼なく、餘り機械的でなく行はれましたらそれ程缺點が出来ないかも知れませんが、この調子でぐんぐんやつて行きますと

子供の生活は——極言すれば、死んで了ふのであります。斯う云ふ事で、中心統合主義保育案が盛になるにつれて、大切な子供の生活が殺されて行く危険が起つたのであります。

(四) 自由遊戯保育案

そこでその反動を起つて來ましたものが「自由遊戯保育案」であります。この自由遊戯保育案は今お話しした事で既に分つて居ります様な工合に、中心統合保育案云ふものが子供の自由、新鮮なる興味を輕視して、それに即してゆくよりも、先生の組織慾に即してゆくこゝの反動ですから、自由遊戯保育案云ふものは只管子供の方につくのであります。先生の組織で保育案を立て、行くのは不可ぬ、子供の自由遊びのまゝでやつて行くのがいゝのである云ふ立て方であり、我國でも自由遊戯主義云ふ名前が屢々言はれますが、これがアメリカで起りました順序は我國の行き方は少し違つて居りまして、我國では、教育全體の中に自由云ふ感じが非常に強く起つて來た後、斯うなつたのであります。アメリカの場合に於ては寧ろこの中心統合主義の組織過度なるに對して反動的に起つたのであります。一種の反逆性をもつて起つたと言つてもいゝ位のものであります。實際の事實としては、この自由遊戯保育案云ふのはこれを理論的に基礎づけましたものはスタンレーホール一派の人でありましたが、その以前之れを考へたのはカリフォルニアの若い保姆さんの、子ぎもに即せる體驗からだつたのであります。

斯う云ふ順序で、保育案云ふものはたつたこれだけの事に就きましても、實に大きなでんぐり返りをやつて居るのであります。何にもなかつた……所謂保育計畫を持たずしてやつて居りました永い間の漫然保育。多分漫然保育云ふべきも却々一人々々の先生は考へて居つたのかも知れませぬ。又偶然の中に立派な事が行はれて居つたのかも知れませぬが、

兎に角く先生の方に案を立てる云ふ事のなかつたのが、ヘルバルトの影響に依りまして極度の組織主義に變つて來て、それがもう一度極端な反動をして自由遊戯保育案に變つて來たのであります。斯う百八十度の變り方をしたのであります。この自由遊戯保育案が段々行はれて居ります間に第三の傾向が起つて參ります。この第三の傾向は自由遊戯保育案の自然主義的やり方に對してもう一度物足りなくなつて來たのであります。物足りなくなりましたが、中心統合保育案の様な工合に、たゞ自分のやつて居る保育は組織の立つて居るものだ云ふ先生の心持を満足させることにあつて戻りさせよう云ふのでなくして、何か別の方へゆかなくてはなりません。

(五) 生産保育案

ところで、教育も現代の社會的趨勢に伴ふて、實生活に向つて役に立つものでなけりやならぬ云ふ事が大變強くなつて來たのであります。これは社會全體の考へ方にしては所謂 pragmatism —— 實際主義を譯しませうか、さう云ふ思想が大變強く起りまして、それが教育の上にも及び、現實的、實際的な生活云ふものに對して教育が大變に目ざす様になつて來たのであります。その時代でありましたから、自由遊戯主義の物足りなさを、何う云ふころから物足りなく感じたかといふこと、(組織が立つて居ないから物足りない感するよりも)、それがたゞ遊び的に過ぎるじやないか。何の生産性を養ふものでもないじやないか。教育云ふものは人生の實際に向つて、もう少し結びつき、結びつくといふ程でなくとも、その方を指さなくちやならぬものであるのに、自由遊戯保育は、たゞ自由な興味だけで遊んで居るに過ぎないじやないか。そこで、幼稚園教育を小學校の教育の様に、生活に役立つものにしてしようじやないか……迄考へたのではありませんぬけれども、教育全般の傾向に餘り離れて、氣樂な香氣な興味本位に遊んで居る云ふ丈では物足りない感じ

て來たのであります。そこで幼稚園の中にこの現實性の形を取入れる事は出来まいか考へて、遊びの中ではあるけれども何かを生産させる事にしたら何うであらうかといふことになりました。遊びに云ふ中に色々な種類があるが、生産する形の遊びを主にして行つたら何うか云ふ事になつて來たのであります。これが即ち生産主義保育案、或は産業主義保育案です。かう名をつけるに大變大きな言葉になりますが、さう云ふ名で現されて來たのであります。

その生産保育案の場合に於きましては、例へば幼稚園の色々の項目の中で、何かを造り出す……その造り出す云ふ事が、少し極端でありますけれども丁度世の中の生産場で造つて居る意味合を主にして……今日、手技に云つた様なものも、あれは一種の造り事でありませぬけれども、あつてもつゝ、或は芋を煮て食物を拵へるに或は菓子を拵へるに或は何かさう云ふ事。それももう少し規模を大きくすれば世の中の産業に直ぐなる様な傾向の遊びを重んじて行かうとしたのであります。

さて、以上三つの保育案につき、私はその現れて來た順序に依てお話いたしましたでしたが、次のが現れた時に、前のが必ずしもなくなつて仕舞ふに云ふものではありますまいから、實際は三つがそれぐいゝ加減にませぬにされてゆくのであります。ところで斯う云ふやり方は、段々研究されて居りましたが、其後に至りまして又變つた問題が起つて參りました。即ち、近代に於きまして、小學校の改造はカリキュラムの改造から云ふ事で、それが大さう考へられるようになります。それ引つゞいて、幼稚園の方のカリキュラムも何うしたら宜らうか云ふ問題が起つて參りました。小學校のカリキュラムの論に連れて、幼稚園のカリキュラムが起つて來た譯です。それについて、千九百十九年であつたかと思ひますが、アメリカの幼稚園界の有名な人々が命ぜられて、その調査委員會が作られ、幼稚園カリキュラムに云ふものを制定したのであります。それ迄は各幼稚園が勝手な事をやつて居つたのを、兎に角、アメリカで——政府に云ふ譯でもありませんが——

委員會でさう云ふものを一つ拵へて見よう云ふ事になつたのです。その委員會で出来ましたカリキュラムを、ずつ以前に、日本幼稚園協會で「米國幼稚園協會保育案」云ふ題で翻譯して出版して置きました。そのカリキュラムでは色々の教材の方を大變に細かく考慮して、即ち今日言ふ所の保育項目の研究を深く致しましたのがこのカリキュラムになつて居るのであります。これは今までのプログラムの方はずつ違つて居りまして、何週に何をやる可きか云ふ、所謂配當ではなく、その保育項目を何う云ふ風な意味でやる可きか、何う云ふ事を狙つて保育項目をやる可きか云ふ教科課程論が大變發達して來たのであります。これが詰り先程申しました三つのプログラムでやつて居りました幼稚園の保育案に對しまして、内容の方にずつミカを盡して來た一つの變化であります。内容の方で力を盡した丈で、餘りプログラムの事は論じて居りませぬ。プログラムの方は内容を論じて居りませぬから、これで補ひがついて來たのであります。所が、この補ひをつけてくれましたけれども、その内容の立て方云ふものが相當これは新しい考して行はれたのではありましたが、れども、少し：何ミ申しませうか、學科的である。所謂カリキュラム云ふ言葉に捉はれたのじやないかと思ひます。教科課程云ふものに基いて、學科的教科的に少しなり過ぎて居る傾きがあるのであります。

その教科的になり過ぎて居りますのに對して更に次の階梯として起りましたものが、コロムビア大學で試みました所謂コンダクトカリキュラムであります。

(六) コンダクトカリキュラム

このコンダクトカリキュラム云ふのは、千九百十九年に作りましたカリキュラムが餘り學科的で、子供の實際の動き、實生活云つた様なものが取入れられてありませぬ。言ひ換へれば、少し知識的、技術的に偏して居るのであります。

當り前に普段の生活云ふものをこの中に取入れてない。勿論この千九百十九年の委員會も、それを幼稚園として尊重しなかつたのではありませんまいけれども、このカリキュラムの上に表はすに就きましては、其方の事は餘り論じて居ないのであります。その點に對してコロムビア大學の幼稚園に於ては、さう云ふ文學とか言語とか或は音樂とか云ふ様な色々の知識技術に即します事の他に、或は靴を脱ぎかへるさか帽子を何うするさか外套を何うする、お辨當を何うする、或は楊子を使ふ、手を洗ふ、お庭の掃除をする、即ち日常の仕事動作に重きを置いてカリキュラムを作らなければ幼稚園の生活カリキュラムにはならぬのである云ふ考でこのカリキュラムを作つて居る。この翻譯が大阪市保育會で出来まして、多分フレール館の出版部で賣つて居る筈であります。これは非常に貴重なる材料でありまして、まだ御覽になりませぬければ一應御覽を願ひ度いと思ふのであります。

(七) 結びをつけて

以上お話は極めて粗雑で、保育案の變遷の來歴をざつと辿つたに過ぎませぬが、私は茲で今日の午前の時間の一つの結びを立てたいと思ひます。即ちこの保育案がいゝか悪いかさういふ各論の外に、斯くも保育案の工夫が色々ござれて居りますのに對し、保育項目の漫然たる羅列で保育をして行く云ふ事は餘りに呑氣なことではないか。長い間吾々の先輩が苦心してやつて來ました保育案の問題に對して、餘りに心ないやり方ではないか云ふ事が一つの結びであります。

それから、以上の色々な變遷にあらはれた、それらの案の長所短所云ふものを批判する時に、吾々の今後作るべき保育案に對して大變いゝ参考を與へられることです。所謂漫然主義ではいかぬ。統合を必要とする。統合を主にする自由なる生活が殺される。自由なる生活許り生かす云ふ單なる個人的の遊びになつて所謂社會生活云ふものがそこに

入つて來ない。所が社會生活を餘り取り入れようとするに遊びの自由さがなくなる。もう一つこれが子供の生活に云ふ方に即して行く工夫はなからうか、斯う云ふことを考へさせられる順序になつて來て居るのであります。

次に又結論の第三として入れて來なければならぬことは、歴史に依て辿りました斯う云ふ保育案の色々の後で、私は何うしても今ではもう漫然保育に云ふ事は出來ないのであります。漫然保育が出來ないと思へば何うしても或立案計畫に云ふものを必要として來る。これが吾々に保育案に云ふものが必要であるに云ふ事を思ひ至らせるものであります。しかもその保育案に云ふものが小學校——小學校も段々變つて來るでありませうが、所謂スクールカリキュラム通りではいかぬので、茲に幼稚園に特別なるものが必要になつて來るに云ふ事を感じるのであります。即ち吾々は子供の生活に即して漫然としてやつて居る丈ではいかぬし、吾々の教へむとする目的に即して學校の様な立案丈ではいかぬし、そこに何うしても幼稚園獨特の保育案に云ふものを作らなければならぬに云ふ事に結論されて來るのです。明日のお話は、こゝから出發します。

二 保育案の立て方

前段は保育案に就て從來の色々な主義を大要歴史的に辿つて見たのであります。

そこでさう云ふ變遷の後を受けまして吾々は保育案に就て何う云ふ風に考へて行くのがいゝであらうか云ふ謂はゞ本論に入る譯であります。前にも一寸申し上げて置きましたが、保育案に云ふものゝ苦心をしないやり方云ふものは要するに保育項目を適當に羅列——私の所謂羅列主義であります。——その羅列した場合に於きましては或はあの色々な保育項目を何う云ふ割合に羅列すべきか云ふ事が一つの問題で、又それを何う云ふ時間的順序に羅列して行く可きか云ふ

事が一つの問題。更にその保育項目の中にあります細目も申しますか、材料の選び方、これも問題であります。そこで羅列主義も雖も相當に苦心さるゝ點もあるのでありますが、私はこの羅列主義も云ふものは如何に苦心されたにしましても、それは此方から與へる事に就ての苦心であります、子供の方の生活も云ふものをてんで考へて居ない。勿論保育者自身もして子供の生活は無視さる譯でもありませんまいし、又そんな事は出来ないのですが、その保育案の立て方そのものに於ては子供の生活の方は考慮に入つて居ないのであります。丁度、何う云ふものを食べさせようか色々料理をする料理人の様なものであります。料理人は色々なものを適當なる材料、分量、順序に於て提供する事を職掌柄苦心するのでありませうが、母親はその料理人の作りましたものを子供の腹加減、或は又子供の其時の食慾、或は子供の趣味も云ふ様な事に然る可く適合させて行く。そこに苦心するのであります。その意味に於て羅列主義保育案は單なる料理獻立である。私は斯うまあ言つて見度い。如何にして子供にその食慾も腹加減も趣味もに即して本當の食事、たらしめるか云ふ事は料理獻立の中には少しも入つて居ないのであります。これを苦心するのは母親の問題であります。保姆さんは即ち母親の様な位置に於きまして何うしても子供の方を考慮してやらなければならぬ。斯う云ふ事であるましますれば羅列主義なるものは私は決して保育案と言はる可きものぢやないも云ふ風に先づはつきり致して置き度いのであります。

(一) 保育案と自由遊戯(生活指導)

そこでその保育案を何う云ふ風に立てるか云ふ事を先づ考へるに於きまして、あの自由遊戯主義保育案も云ふもの、これを先づ私は問題にして見度い。この自由遊戯主義保育案なるものは昨日も申上げた通りヘルバルト流の餘りに拵へ過ぎた形式的保育案に對して反動もして起つたものであります。その反動の仕方は何所迄も子供の生活の方に即して行かう

とする行き方がありますから、そこに今吾々が考へて居ります子供の生活を主にする云ふ趣旨に於きましては、この保育案よりもこれが非常にその點に於て意味の深いものを持つて居るのであります。たゞ自由遊戯主義保育案云ふ名前に於てそれで一切をやつて行かう云ふ事、言ひ換へれば自由遊戯主義そのものだけで幼稚園保育の計畫の全部を占領させて行かう云ふ事に就ては問題が起ると思ひます。ですからあのサンタバルバラの幼稚園の若い保母さんが舊式なやり方に反抗して、共に遊ぶ云ふ事に於てやり出しましたあの心意氣だけは私達は充分買はなくちやならぬ。その意味に於て自由遊戯云ふ事で保育案の全部を立てよう云はしませぬけれども、自由遊戯云ふものが保育案の重要な一部、殊に基礎的部分に取入れられる事はこれは認めなくちやならないと思ふのであります。この點に就て、一般の保育案に於きましては、保育案云へば自由遊戯云ふものは外に出されて居る。殊に羅列主義保育案なるものに於ては料理獻立の仕組の方を主にして居りますから、子供が自分でやります様な事はその中に入つて居ないのであります。即ち保育案云ふものは自由遊戯云ふものは、絶縁して居る程でない云はしても、兎に角主なる考慮の中に入れてありませぬ。これが従來の保育案の一つの形かと思ひます。何處の幼稚園を拜見しましても「保育案は何うしてお出でになりますか」云へば、色々御苦心の結果が示されますけれども、其中には自由遊戯は入つて居ないのであります。自由遊戯は自由遊戯で子供のする事、保育案は保育案で先生の企み——計畫、斯う云ふ風に非常にはつきりした線を引いてあるのであります。云々が、あの自由遊戯主義保育案の苦心を見ますと、自由遊戯そのもので保育案全體を拵へ様にする程、兎に角く勇敢に試みて居るのであります。吾々はそこまで勇敢に自由遊戯一天張りでゆかう云はしませぬが、保育案の中に是非これを入れなくちやならない云ふ事が一つの主張であります。即ち新しく考慮せられるべき保育案では保育案に自由遊戯云ふものが別個のものでない様にする建前が是非採用せらる可きものと思ふのであります。

たゞ此所に問題が起つて参ります事は、成程自由遊戯ミ云ふものを大いに考慮するが、それは何所迄も自由遊戯じやないか。保育案は計畫である。自由遊戯は子供が所謂勝手にする事である。其日、其時、其事の色々な自發的の自由遊戯が始るミして、これを豫め立案して置くミ云ふ事は不可能な話じやないか。又若しも自由遊戯ミ云ふものを立案的に、今日はこの自由遊戯をしる、明日はこの自由遊戯をしるミでも言つたならばこれは自由遊戯そのものでなくなつて了ふのではないか。斯う云ふお説は當然出て來るのであります。

そこで、自由遊戯は保育案の中に取り入れたし。たゞじやない、取入れざるべからず。併し自由遊戯そのものは保育案ミ云つた様な立案的性質ミ違つたものであらう。その關係を何う考へるかミ云ふ事が問題になつて参りますかミ思ふ。これに就きまして色々な事を考へ得るミ思ひますが、第一は子供が自由遊戯をするミは言ひましたも、大體に於てさう甚しく思ひ掛けない様な事が子供に依て遊ばれるものでないミ考へていゝかミ思ふのであります。成程指導されて居るのでない。況んや課題されて居るのではない。子供自身は自由にやつて居りますけれども、その自由遊戯なるものが無制限に多種多様にあるのじやない。殊に季節等の關係からその子供達の致します遊ビミ云ふものが凡そは定つて居る……言つては言ひ過ぎるかも知れませんが、或範圍内のものであるかミ思ふのであります。若しさう云ふ事が言ひ得るならば——もう一度繰返します。此方で範圍を定めるのではないが、自由ミ言つたつて子供が幼稚園の中でします自由遊戯ミ云ふものは凡そ大體には定つて居るものじやないか。そうしたらそれを充分に先生が心得て置くミ云ふ事は出来ることです。そこで今日此頃はこんな遊ビをするであらう。去年も大體こんな遊ビを今頃はしたミ云ふ様な見當が先生に立つて居りますならば、これは先生の方から作り出した立案計畫ではありませぬけれども、幼稚園生活に對する先生の用意ミ云ふものにはなつて來るミ思ふのであります。抑々——なんミ言ふミ偉いのであります——保育案たるや立案ミは言ひますが御承

知の通り先生の用意であります。それを必ずきちんとして子供にさせること云ふ事が主であるよりも、不用意に子供の中に
出て行かないこと云ふ所に保育案を先生が持つて居る心強さが必要で周到さがある譯であります。若し保育案全體が用意さ
云つた様な意味であるとするならば、子供の自由遊びに對して凡そ見常をつけて置くこと云ふ事も、これも用意云ふ意味
に於て保育案の性質を帯びて來るものではないかと思ふのであります。吾々が、何か會でもありまして、皆様が私に「さあ
歌でも歌へ」と言つたことを。——何んかすゝめても決して歌はないこと云ふ見當がついて來ましたし、萬一歌はれたら響く
てたまらぬこと云ふので、さう云ふ事を言ふ人もありませんけれども、「お歌ひなさい、まあ何でもお歌ひなさい」と言つて、
或はピアノを用意し、或は三味線を横へて待つて居る人があつたことします。「さあお始めなさい。何でもお始めなさい」と
言ふのですが、それならほんに何でもいゝか言つて見た所で、實は大體見當は定つて居ります。エチオピアの都々逸
を急にやり出すものではない。大抵、時の流行物もありませうし季節柄もありませうし、何でもいゝか言ひ乍ら、實は
いつものおきまりの二つの中の何方かをやるにきまつて居ませう。子供達も自由遊びと言つて放任されて居るが、それは
心的態度に於て放任されて居るので、する事自體に於ては凡そ定つた事をする。その定つた様な事に對し見當がついて居
りますならばそこから先生は色々な事が出来る。即ちその遊びに對して色々な意味に於て用意が出来るのであります。

私は時にこんな事を思ふ。保育案に就て周到嚴密なる計畫を立て、居る先生が、まあ然し此方の思ふ事ばかりやつては
いけないさうだから暫く汝等の自由を許すこといつた意味で自由遊びをさせて置いて、その自由遊びを何等先生の用意に結
びつけず全然打ちやり放しにする……これは私は間違だと思ふのであります。サンタバルバラの若い保母さん達は、あの
報告に依て見ますと、今日は子供を連れて海岸に出てマーチをした。或は、何時から何時迄木の實を拾つて遊んだ。こと
ふ報告が出て居るのであります。即ち子供がする生活そのまゝの記録の様でありますけれどもその子供がする生活に對し

て先生が何さうまくちやんさ用意をしてあるか云ふ事が感心される。

先生に何等用意がないならば自由遊びを幼稚園で尊重して居る事は言へないのであります。若し今日あたり幼稚園が開かれてゐたらば子供は防空演習の自由遊びをするのでありませう。その防空演習の自由遊びを始めた時に「まあやりなさい。さうせ假想である、何でもやりなさい。時々私はサイレンでも鳴らさうウー」。これはまあ餘程いゝ部でせう。明日は子供が防空演習をするだらう云ふ心構へに於てサイレンの用意がしてあるのです。若しその上先生がマスクをかけてのここの出て行けば大傑作であります。之れは一例ですが、私は、自由遊びを用意を以て迎へる云ふ事は既に立派な保育案の中に入るこゝださ考へるのであります。皆さんの中には、用意した以上は何でもかんでもやらせる。用意して置いてそれが用ひられなくてはつまらぬ事である、斯う云ふ風に仰言る方もあるかも知れませぬが、私はさう云ふ譯のものじやないと思ふ。勿論保育案の或部分では用意したものを此方から何かさすべく色々手を盡して行きますやり方もあり、或は自由を尊重する吾々の保育に於きまして、子供に「さあ斯うなさい」云ふ位の心もありますけれど、自由遊び云ふ事に於てさうはなれない。ですから折角さいろいろ用意してゐられたのに何うした風の吹廻しか、今日は全く違つた事を子供が始めるかも知れませぬ。その時私の處に「何うしてくれる」云ひ抗議を申し込んでいらしても私に責任はない。若し間に合ふなら飛んで行つて「君、折角く先生が用意して居るんだぜ、何方も自由なら此方をやり給へ」云ひ仲裁しても宜しいがさうもいきません。尙又私は考へるのですが用意がたつた一つだつたら外れる事があるに相違ないさ、けれども、用意が一通り充分出来て居たら、これもこれもが無駄になつて、手を空しうして居なければならぬ云ふ事は割合にないのではなにかと思ふ。氣の利いたおつかさんが子供にお八つをやる時に——お八つは本當は「何を上げませうか、何が喰べ度いのか」云言つてやるのが本體である。貰つたカステラがある中は是が非でも「一週間カステラを食へ」云なつては、子供は「お

八つだぜ、覗いて御覽、カステラがあるから喰はずんで俺達喰ひ度いから喰ふのではない。まあ我慢しろよあこ二日間だ」なんてこゝになるかも知れません。カステラはまだ結構ですけれども、母親が衛生お八つを工夫して、じやがいを皮を剥くこ何さかなくなるとそのまゝ鹽をつけて、しかもポツ／＼と熱いのを食べさせるこ澤山食べぬこ云ふ風のは計畫お八つである。それに對し子供が「お母さん一緒にデパートの食堂に行きませうよ、連れて行つて下さいよ」。こ言ふのでせうか。お母さんは「家に何でもお前の好きなものがあるじやないか」こいつても、連れてゆけこいふ。何故そう行きたがるかこ言へば、其處のが美味いからではなく、其處ではなんこ食ひ度いものが選べ、れ得るかこ云ふ事でありませう。それが愉快なのです。しかもその自由に選ばれ得る處に行つて子供は何を選ぶでせうか。大體家で食つて居る様なものしか選びませぬ。私達大人は殊によるこまるつきり家で食つた事のない様な變つたものを好奇心で食べるかも知れない。けれども子供があれを選びこれを選んで、結局はいつも家で食べて居る様なものを食べる。「何だねこれならおうちにもあつたじやないか」こいはれますが、問題はそれを與へられるか、自ら選んで取るかの違であります。それが大きな相違なのです。

そこで自由遊びは、自由であるこ云ふ事から、いやに無制限で手もつけられない様に考へるあの考へ方を改めたいのです。そして子供の生活態度としては自由だが、その品目に就いて豫め此方に見當がつく。つくなら用意が出来るこ考へてゆきたいのです。さてその用意は……

(二) 自由遊びに對する用意

一つはその自由遊びに適切なる場所を用意する事でありませう。幼稚園の場所を、斯う云ふ遊びが流行つて居ればさう云

ふ遊びが出来る様に工夫する。次にその自由遊びに用ひられる所の材料を用意する事、これももごよりであります。今日は何をさせようか云ふ事に就ては大變苦心なさる方が、子供がこんな事をするだらう云ふので材料を用意なすつて居ることは意外に少ないのではないかと私は思ふ。ところで此の二つは物のこころですから簡單ですが、第三に、子供がやりま
す遊びに就て、先生がその遊び方を充分に用意して置く事。これこそ最も大事なこころであります。私は何時か幼稚園協會
あたりの講習會で、自由遊戯講習會云ふものをやつて見度いと思つて居る。(笑) そこでは、戸倉さんが考案されたあの
立派な體育的藝術的遊戯ではなくして、子どもが平常してゐる自由遊戯許りする。この講師を誰に頼むべきかは腹案が立
つて居りませぬけれども、その自由遊戯講習の細目を見ますと、ジャンケンボンの仕方、石けりの仕方、かけつこの仕方、
旗取りの仕方、ばつたの捕り方、云ふ風のもの色々やるのであります。皆さんはお笑ひになるが、私はこつといふ講
習が案外必要じやないかと思ふのです。自由遊戯に關する限り先生より子供の方が屢々上手いのであります。「おぎきな
いよ、ばつたは私が取つて上げる」なんと言つて先生が飛出しますが、子供の方がごんなに上手く取るかも知れませぬ。或
はジャンケンするつたつて、皆さんはお上手でせうが、何處かの幼稚園主事の如きはジャンケンが上手く出来ません。私
は子供も本當に自由遊戯の中で遊ぶ。——自由遊戯指導と言へば、自由遊戯の中で或保育をする事直ぐお思ひになりま
すが、——たゞ自由遊戯そのものを子供と一緒にするのも、相當の用意を要するかと思ふのであります。一つの幼稚園
で子供の人氣のある保母さんがあります。その人はきまつて自由遊戯の名人であります。ピアノに合せる調子外れであ
る。むづかしい遊戯をさせるべきぢやない。けれども、石けりになるご何ご夢中であるが、實にさう云ふ先生こそ眞の自
由遊戯生活指導者である。教育的指導云ふ事と純生活の指導云ふ事は少し意味が違ひます。教育者が指導と言ひま
すも、直に教育的効果を引出して來るこころいふ風に考へるのでありますが、しかし、先生が一枚入つて來る事によつて、

その遊びがずつ面白くなり、ジャンケンにもさう云ふ仕方があるのですか、石けりにもさう云ふ仕方があるのですかといふことで面白くなる。之れこそ立派な指導だと思ふのです。私は幼稚園の子供がいつも同じ様な事を繰返して居るのを見ます、保姆さんはもう少しその遊びを指導して、内容を豊にしておやりになる事が出来ないのか、悲しく思ふのであります。ところで、こゝにいふ指導を行つても、決して自由を妨げるものではないと思ふ。今度の石けりは號令でやれ、こゝに云ふ事になつてはいけませぬけれども、石けり遊びそのもの、本質の中に於て先生から「斯うやつて、」と教へて貰ふのは、何も生活の自由を妨げられることではない。決して先生の押つけることじやない。しかも、それでゐて、幼稚園の保育としての立派な用意であると思ふのであります。

(二) 保育案と實際生活(生活訓練)

幼児の生活には自由遊びの外に、實際生活があります。實際生活と云ふ言葉は強過ぎますけれども子ごにもこつては實際生活です。幼稚園に這入ります。先づ帽子を脱ぎます。遊戯じやありません。勿論元氣潑潑たる子供が帽子をボンと投げる。前日輕業でも見て來ようものなら帽子脱ぎ自由遊と云ふものが始まります。しかし兎に角も、帽子を脱いでそれを帽子掛けに掛ける。或は履物を履き換へる、之は本當の必要であります。或は御飯を食へる。此爲にはお辨當を何うする、御湯を何うする、御箸を何うする、色々の實際があります。斯う云ふ風に、幼稚園の中で子供が或必要と云ふことに基いてやつて居ります實際生活、之は自由遊戯と對立してゐる所の生活であります。その中にも色々種類があります。此方で必要を課して行つた場合、必要を自身から出て來る場合とあります。子供の方から出て來た場合が一番自然の實際生活、此方から課した事は少し自然じやない様であります、併し之をしろと云はれたからいや／＼する

のではなくて、其必要を感じてその行動が生れて来るのでありますから、全然の他律的行動は譯が違ひます。其處で色の指導が出来ると思ふ。之を生活訓練と私は名付け度いのであります。生活訓練と云ふ或人は斯う考へる。訓練がしたいのが目的で、訓練をするのに生活の中でやる。斯う云ふ風に考へる人があります。之も立派に成立つ一つの考へ方ではあります。殊に私は大に共鳴する所もある。子供の今やつて居る生活と無關係な訓練といふものは、幼稚園では出来るだけ避け度いと思ふ點です。之は訓練一般論として又別の問題になりますが、成可く今の子供の生活範囲内の事で訓練をしたい。將來市民としての心得を學ばなければならぬ。選舉の稽古をやつて呉れ、なんて事は幼稚園では要らぬ事でありませう。或は女の子に「貴女大きくなつてお母さんになつた時に何うする」なんて事も要らぬ事でありませう。更に高級なる精神的訓練等は幼稚園では、——したい事はしたいが——子供の今の生活と餘りに離れて居る事です。つまり、私は訓練と云ふ問題から考へて見ました時に、成可く、手近の生活の中で出来る訓練がしたいと思ふ。即ち私が生活訓練と云ふ一つの名前を特に提唱致します所以は、訓練の目的で生活を何うする、利用する、斯う云ふ意味がなくて、その生活の中に其生活を生活として完成させることを主にしてゐるからです。訓練は道德目的があつて、道德要素があつて、我國の幼兒は斯くくくくくたるべき事、と云ふ道德目的があつて。夫を生活の中でやつて行かうと云ふ風な方面のことでなく子供の實際生活を見て居りて、子供が如何にも實際生活の必要を感じ、その生活をチャンスしたい氣持でゐるところに出發するのです。例へばお部屋に這入ります。そのドアを一寸開けて這入ります。その時、その中で仕事をして居る人が居るのに、ドアをバタンと閉めてガラ／＼と馳けて這入つて來た子供は何う云ふ氣持がするか。勿論色んな場合があると思ひますが、斯う云ふ二つの場合を考へませう。自己の目的自己の必要で、何かをお部屋から持出して來たいので、自分の仲間が靜かに晝を書いて居ると云ふ事が眼中に這入らない程熱心に馳けて來て馳けてゆく場合もありませう。さう云ふ

時には私はガタ／＼と馳けて行つた子供に向つて、さう攻めるべきでない様な氣がするのであります。道徳訓練目的から言へば、如何なる時にも靜かに出入し、人の妨害をしない様にすべきであります。太郎ちゃんがあんなに一生懸命に外へ遊びに行かうとするのならば、先生はスーツミ迎へてドアの所へ行つて子供を出してやつてドアを閉めてやる。云ふ事をすればいいので、もう一度やつて御覽、何でも訓練である、出来なければ遊ばせない……。そんなことだミ、子供泣き出して仕舞ふ。「先生ミは私の訓練の爲に私の生活を無視して了ふ。恨めしき人かなミ思ふのであります。しかし又ある場合には子供が急いで馳けて来て又急いで馳け出して行くにも、「御免よミ言つた様な事を言つて行くことがあつた。その時には訓練が出来ます。其子供の氣持の中には既にその生活自體ミして人を妨げまいミ云ふことが、心の中に仄かに現はれて居るのであります。幽かながら現はれて居るのであります。さう云ふ時にその生活を「あなたさう云ふ時にはドアをチャンミ斯うすればいいよ」斯う云ふ事を教へてやれば其處で訓練になつて来る。子も「さうね」ミ言ふでせう。子供自身の生活に這入つて行けたのです。水道を開けて手を洗つて居ます。「ジャー」ミ出る。「先生撥ねるね」「面白いね」。あたりにはねかります。「撥ねるね」なんて言つて居る。子供が聊か困つて居るのを先生が一寸捻つてやる。その時、子供は何も水道の使ひ方を稽古して居るのでなく、實際上撥ねて困つて居るのである。其處の所を「一寸斯うすればいい」じやないの「ミ」いつた事が先生によつて與へられるのであります。即ち生活そのものゝ中でその生活が完成されて行くのです。道徳目的を先きにして生活を利用してゐるのミは違ひます。自由遊びそのものを本當に豊かに楽しくさせて行く爲に指導してやつた如く、生活を生活ミして完成させて行く爲の色々方法がある譯ミ思ふのであります。又そこに生活訓練ミ云ふものゝ要目も出来て来るのであります。之も子供がいつみんな生活をするか知らん、ミ言つてゐたらきりがあります。ぬが、幼稚園の中で毎日やつて居ります實際生活は自由遊びよりも更に大體決つた様な事でありませぬが、大體同様な事

をやつて居ります。その同なし様な事をやつて居る中で、先生がその時その時の指導の仕方云ふものは、充分豫め用意出来るものご考へるのです。

此實際生活訓練が、保育案のいろ／＼の中でいへば、一番終ひに擧げましたコンダクトカリキュラムの主旨に似て來ます。似せた譯ではないが、そうなつてゐるご、斯う言つて宜しいかと思ふのであります。

扱てその生活訓練を今言ひました様な意味に解釋しました時に、此處に特に注意して置き度いごは、訓練を外^そからするんじやなくて子供自身の實際生活そのものをチャンごさせ、完成させて行くのですから子供はその先生の要求せられる様な事をチャンごする事によつて必ず快感が起るのであります。愉快が起るのであります。この愉快ご云ふものを充分満したいと思ふのであります。一體ごうも訓練ご云ふ事は苦しい事のように思はれてゐます。苦しくなくては訓練じやない様に思ふ人さへある。勿論お互の様に變てこになつてゐるものには訓練は苦しい。しかし、生活が完成されるごは苦しいごではない筈です。例へばこの間或外國人ご一緒に御飯を食へました。其時にその外國人の小さな坊ちやん。幾つだか年は聞きませぬが、此方で言へば小學校の四年位の子供、そのごもがテーブルについて居りまして、實に何ごチャンごテーブルマナーをやつて居ります。ナフキンの掛方、スーブの吸方からスूसーごやりまして、小さな聲で話しをして、……その子供が實に立派にやる。吾々があの年齢の時にそれが出来なかつた。今も出来ない。ごうもあゝ行儀よく、作法的にやれませぬ。それで私愉快かご言へば、まさか不作法が愉快な程に野蠻じやない。野蠻人はそれが愉快でせうがそれ程ではない。しかし、ほんごうに作法正しくしてゐるごはなんごなく窮屈で閉口です。所がその子供は樂にやつて居る。樂にやつて居るご云ふのは、叱られるからやつて居るのではない。小さい時からやつて居るからさうするるのが愉快なのです。これが吾々の國の子供でありましたらさういかない。さういかないのは、不作法でない事の愉快を

餘りにも知らない譯なのです。つまり、訓練され次第のことです。

子供に齒を磨かせる。含嗽をさせる。その齒を磨かせる時に、衛生上大事である、之をチャンミすれば蟲齒が出来ない。老後もいゝ齒になるといふのでなく、この口の中がモグくするがいゝ氣持になる。さあ氣もちがいゝから致しませう。又、それでこそ、眞に訓練が生活的にされてゐるものといへるでせう。言ひかへれば、吾々が道徳的を氣持がいゝと思つた時に私の生活の中に道徳が沁込んで來たのであります。

(三) 純生活指導から立案保育へ

この後に來るものが所謂先生の計畫の方からして行く所の保育案であります。それは狭い意味での保育案で、廣い意味の保育案は必ずしもこの後の事ばかりでなく、今言ひました様な事をも重要な要素として取入れて置き度いのです。しかも又之だけの事で終つて了つていゝならば、幼稚園云ふものは、實に何と申しませうか、子供の生活が其儘ふわりに行はれるだけの極くなだらかなものになるかと思ひます。家庭では學齡前の子に對しては、大體斯う云ふ事だけをやつて居るのであります。母が子供の保育をすると言ひました所で別にピアノを弾いて何うするか、臺所の板の間に行つてダンスをするとか云ふ事はないのであります。子供の自由遊びの相手をしてそれで生活を豊富にし、又子供の實際生活に對して、隨時に斯うした方がいゝ、斯うしませう、實際の訓練をする。之が先づ家庭的な場面でありませうところがそれが幼稚園になります。所謂教育者として色んな目的を立て、居る。目的は、言換れば、子供に何う云ふ結果を現したか。その目あてが先生の方にはあるのであります。そして、斯ういふ云ふ結果を來らし度い云ふ事から、色んな保育項目も選ばれて居ります。あの保育項目云ふものは勿論先生がつくり出したものぢやない。子供の生活を見てその中に

あるものを保育項目として用ひたのである。しかし一寸他の方から申しますと、その子供の生活を見て居て、その中から拾ひ出して来るに云ふだけならば、それだけならば、先程申しました自由遊びの中で吾々が自由遊びの色々なるものを用意するに云ふ事と變りはないのであります、或人は保育項目に云ふものの子供の自由遊びの中にある畫を描く事、歌を歌ふ事、ダンスをする事、それとは何處か違ふのですと疑ふ人があります。子供の生活そのものを見て居つて、あれだなと云ふ事に於て保育項目を考へるにすれば、自由遊びの中に於て子供が畫を描いて居る、砂場でものを作つて居る、子供が歌を歌つて居る、それと少しも變りはないのであります。しかも、特に保育項目に云ふものが子供の生活の中から取つて來ただけでなくて、今度それが保育手段として用ひられて來ますには、即ち特に保育項目にされるのには、子供に斯う云ふ結果を來してやり度いと云ふ目的が主になつて來て居るのであります。其目的をもつてそれらの保育項目を選んだのであります。子供が歌を歌つて居るからあゝ一緒に歌を歌はうと云ふのが先程申しました自由遊戯の中で子供と一緒に遊ぶに云ふ事です。しかも唱歌に云ふものを特に保育項目に吾々が立てゝ來ましたのは、子供に情操の陶冶をしてやり度いとか、よき表現方を養つてやり度いとか、或は皆んな揃つて歌ふに云ふ社會的共同的生活をさせ度いとか、それらの目的がありました、そのために選り用られてゐるのです。ですから保育項目そのものゝ眞の實質は自由遊戯の中から取つて來たものに他なりません、それを保育項目として用ゐて行きますのは、所謂此方から教育者として期待する所のもの先づあり、それを實現すべき手段として、あれがいゝ、之がいゝと云ふ立場からやつてゐるのであります。ですからあの保育項目に云ふものは色々ありますが、そのやつてゐる事が主ではなくて、何時も私が申します通りやつてゐる事が主でなくて、それによつて到達する所の、それによつて成就する所の、それらの教育目的が大事なのであります。若し之れを私の言葉で言ひますならば、期待効果が云ふことが各保育項目の主點になるのです。もう一度繰り返していへば、吾々

の保育項目を何處から持つて來るかと言へば、幼兒の生活界から持つて來たのですが、何故唱歌を持つて來たか、手技を持つて來たか、觀察を持つて來たかと言へばこの期待効果をそれによつて實現し得るからであります。此期待効果のこゝを、昨日申しました一九一九年のアメリカの委員達はアッティンメント云ふ言葉で言つて居るのであります。即ち到達する所のものを意味するのであります、斯うすれば斯うなるこゝいふねらひです。所謂自由遊びを自由遊びとして完成さしてやらう。生活を生活として正しく訓練して行かう云ふだけの時には、必ずしもアッティンメントを私考へて居りませぬ。アッティンメントを餘り強く考へるゝ生活その儘でなくなつて來るのであります。ですから今申した通りこの二つに於ては子供の生活に何處迄も即して、それを主にして、徹底的に生活を生活のまゝにしてやらせて行かうとする。それに對し、保育項目ではお互が教育を教育としてある期待効果を期待して居ります。この期待効果に基いて今度やつて行きますものが所謂普通の立案的保育になつて來るのであります。

其處でお互の研究をしましては凡ての期待効果を如何に何う云ふやり方で一番よく満足出來るか云ふその研究が先づ基礎にならなければならぬのであります。

(四) 期待効果に就て

其處で小學校に於きます所の「學科」云ふものには、夫々明かな期待効果がある譯であります。唯小學校の學科の場合に於きましてはその期待効果が、何と言ひませうか、小學校の方では「實質的及び形式的」云ふ言葉を使つて居りますが、其の學科の知識其のものが子供に與へられて行く云ふ事も一つの期待であり、及び其の學科を通して他の一般的精神陶冶の効果も期待されて居るのであります。兎に角期待効果云ふものが凡ての教育に缺く可からざるものである。

所で幼稚園の場合に於きましては、この効果を最も代表して居りますものが即ち「保育項目」である。保育項目云ふものは——もう一度繰返して申しますが——それをこつて来るには子供の自然の生活、恐らく「自由遊び」の中からこつて来たのでありますが、併乍ら何を標準にしてあゝ云ふものを選び来たかと言へば豫め子供を教育するに就て或目的があつたからであります。其目的に基いて選び来ました保育項目云ふものは一つ／＼が夫々特有なる期待効果を持つて居るのであるこゝはいふまでもありません。

其處で或場合には、音樂では音樂それ自身、圖畫では圖畫それ自身、觀察では理科的知識そのもの、云ふ様な事を主にして保育項目を子供に與へる人も昔はあつたのでありますが、今日ではさう云ふ間違ひをする人はないのであります、凡ゆる保育項目云ふものはそれが表面に示して居ります知識の内容よりも、それによつて子供に與へられる色々の精神陶冶の効果を期待して居るものであるこゝこゝは、よく理解されてゐます。又斯くてこそ保育項目云ふものが幼稚園に於て大事なものになつて来るのであります。自由遊びを主にしてやつて居ります時には子供の方で色々な遊びを始め。その遊びの中には夫々色々な効果が期待せられるのであります併し之は期待する所あつてその自由遊びをさせて居るのでなくして、その自由遊びの中から色々な効果を導き出して来るのであります。之が自由遊戯の指導の一つの目的であります。この場合或特定の期待効果を以て子供の自由遊戯をさせて行く云ふ事は出来ませぬ。子供が自然に自由にやり始めます遊戯を側から見て居りまして、その中から色々な効果そのものを引出して来ようとする。ですから自由遊戯の場合に於ては効果はその生活の後に生れて来るのを待つて居るのであります、先きへその効果を期待して居る場合ではないこゝこゝになります。

保育項目の場合と同じく遊びの中から取來つた材料に他なりませぬけれども、保育項目そのものゝ元來の成立ちが効果

を期待する事に於て造り出されたものでありますから其處でこの場合は先きへ効果が期待され存在して居るのであり、之が自由遊びも、保育項目を保育項目として子供にもつて来る時違ふ點であります。

幼稚園の保育が皆様の最も熟練したやり方で行はれ、單に熟練して居るのみならずその時の氣合が先生も子供も皆目調子が合つて行きまして、所謂その熟して来る、或は調子が乗つて来る。斯う云ふ場合に於きましては自由遊戯を指導して居る場合も此方で保育項目を與へて行く場合も、横から見て居りましては勿論、やつて居る先生にしても子供にしまして、餘り差別がない情景に達するのでありませう。之は皆さんの始終御經驗になつて居る所かと思ふ。皆さんは保育の名人でいらつしやるから、却つて餘り始終で御分りにならないかも知れませんが、その反對の場合を考へて見ますと、皆さんの保育を始終やつておいでになる日々の状態に於て先程申しました調子が旨く乗つて來ない云ふ様な日があるかも知れない——皆様は名人でさう云ふ事はないと思ひますが、——この保育の調子が乗つて來ない云ふのはどんな時かと思ひ想して見ますと、例へば新入園児を取扱つて居る時は子供も皆さんもが慣れて居りませぬから其處で調子が旨く合はない。何だかそりが合はぬと言つた様な、何處どこか、ちぐはぐちぐはぐな所があると言つた様な、尠くも流れに沿つてぎんぐぎんぐ流れて來るさか、ぎんぐぎんぐ平らな道を馳けて行く様な滑らかな行き方が行はれない場合がありませう。或は必ずしも新入園児も云ふ様な場合でなくとも子供の方が非常に疲れて居る、氣分が悪い、云ふ様な時には矢張りその調子が旨く合ひますまいし、名人が疲れて居る場合にも矢張り調子が合はぬのであります。斯う云ふ御經驗はないかも知れませぬけれども、假にまあ考へて見て頂き度い。「何だか今日は調子が合はぬ」さう云ふ時に限つて妙に保育が悪疲れをするもので、調子にさへ乗つて來れば非常に働きましたもさう疲れませぬし、或は自分にも思ひもよらぬ様な事がぎんぐぎんぐ湧いて來る。ミころが、その所謂調子に乗つて來ない場合、何だか今日の保育は斯うちぐはぐで、何ドツ處ツカに斯う透聞だらけであるさか氣合が乗つて來

ない云ふ様な場合に於ては色々な缺陷が其處に起りませう。その缺陷にいろ／＼ありますが、其の一つは自由遊びを保育云ふものが非常に離れたものになつて了ひます。子供に自由遊びをさせて其中に此方から這入つて行く事、此方から保育項目を云ふものを立てゝおいて子供にはいらせて行く云ふ事、之がちぐはぐの場合に於きましては實に離れ離れのものになつて了ふ。さう云ふ場合に於ては流石の名人も保育項目を極めてぎごちないものにしてやられると思ふ。所が調子がさん／＼乗つて來た場合に於きましては自由遊びを保育項目云ふものはさう區別の立たぬ様な形に於て與へられて了ふ。言換へれば生活の中に融けて行き得るものである筈であります。其の生活の中に融けて行つて、先生の方では保育項目に基いて保育を與へてお出でになりましたも、子供の方では全く自由遊びの中の様な氣でそれをやつて了ふ様な工合で滑らかに行くのであります。併し其場合に於て其處迄、渾一に融合つた様な無差別の状態になりましたも、自由遊びを保育項目によつてやつて行く自由遊びとは違ひがある。その違ひが先程申しました効果を後から然るべく收めて行かうとする自由遊戯指導の場合、初めからはつきりした効果を以て臨んで行きますの、やつて居ります當人は何處だか譯らずやつて居りますけれども、其處に理論上の違ひが何うしても抜き去る事が出来ないものであります。例へば吾々が不斷生活して居ります時に好き勝手な何の氣もない生活をやつて居つて、その中から或る健康の結果を得て來る場合、凡そ豫め健康のあれこれの結果を期待してやつて居ります場合もある。生活の調子が乗つて來れば區別はなくなつて了ふ。結果の爲に、効果の爲にやつて居るのか、自然やつて居るのか解らぬ様になつて來ますが、理論上に於きましては其處に効果が、生活の後に收められるか、効果が生活の先きに先づ期待されて居るか、は、はつきり何處迄行つても區別があるのであります。

其處で斯う云ふ事を、こんなにグラ／＼と申しますのは保育項目の一つ／＼云ふものは假にどんな上手な與へ方をし

ましても期待効果が先きになつて居るものだ、斯う云ふ事はつきりして置き度いのであります。

其處でその期待効果が先きになつて居ります保育項目云ふものは恐らくそれだけの教育効果を其處へ生み出し來る爲に最も有效なる保育方法に相違ない。

それに對し私が近年來誘導保育案云ふものを頻りに提唱する。さうするに保育項目の一つ云ふものを少し繼子扱ひする様な趣きもありますが、その保育項目云ふもの、一つは今申しました様に、効果を上げる云ふ意味に於きましては非常な、力がある事なのであります。その保育項目が効果を上げ得る云ふ事、其處の點を強く考へました時に其處から却つて問題が起つて來るのであります。

一つ一つの保育項目が詰らぬものであるから誘導保育案の様なものを考へ出して來るのではなくして、一つ一つの保育項目が非常に強い効果を豫め期待して掛つて居る様なものであるから、其處に問題が起つて來るのであります。

その問題は何う云ふ性質の問題かと言ひますに、保育項目がそれ一つ一つとして與へられました時に於ては餘程調子のよい時でない限りは効果を期待する事が先きになつて居ります。生活の極く自然さ云ふものが損はれる、之が問題である。即ちその一つ一つの保育項目の持つて居ります教育効果の方が本來先きになつて居るものですから、効果云ふ事を先きにしないで生れて來るあの生なまの生活云ふものも一致して來ないのであります。之が保育項目を幼稚園に於て極めて大事なものだに承認し乍ら、保育項目に於て問題を生み出して來る基であります。若しも幼稚園教育者が子供の生活云ふ事に就てのその自然さ、言換へれば効果を期待する事なくして始まつて來る生活、それには後からは効果がその中から取得るでありませうが、効果の爲に出來て居るものじやない。一寸妙な例を引きませう。餘り暑いですから涼しい例を引きます。水道の水云ふものはあれはまあ生なまぬいさか、何の彼の言ひますけれども、兎に角水道の水云

ふものは人間の使ふ爲に出て来る。其處であれを捻つて出て来る水、結構な水でありますけれども、其處には何うしても水の用途に云ふ事を先きにして出て居る水だ、云ふ感じがあるのであります。岩清水が自然に岩の間から流れ出て旅人がそれを飲む。云ふ様な時の水は水道に於て變つたものではありませんが、その岩清水に云ふものはこれは人に飲ませるに云ふ目的で出て居るのではない。出て居るから飲むだけでその岩清水が實にしんみり涼しい感じを與へる。或は水を入れました冷たい水道の水も味に於て變りはないですけれども、何處に岩清水に違つた所がある。その違つた所があるに云ふのは、水そのもの、性質ではなくして、効果が先きになつて出て来たものか、効果が後から生じて来るものか、云ふその微妙な違ひであります。所で「なあに、咽喉さへ濡ほせばい」云ふ單純なやり方で水を飲んで居る人にはそんな氣持は何等大した問題にしては起つて來ない。けれども若しもその微妙なその味を味はうならば其處に大變な違ひが感ぜられるのであります。岩清水を一度も飲んだ事のない人は水に云ふものは皆鐵管から出るものだと思つて居る。岩清水に云ふものを始終飲みつけて居つた人は同じ水であつても之が鐵管から人間に飲ませる様に運ばれて居るに云ふ事實がその水の味に言ひますか、自然に云ひますか、自由に云ひますか、生ま／＼しさを失はせませす。製造した水に云ふ譯ではないのですけれども……。

さう云ふ關係が矢張り保育項目にもあるのであります。保育項目は自由なる自然の子供の生活から取つて來たに相違ないけれども、それは期待効果を基として子にも與へるべく用意されて居るものでありますから、水道の水の様なものである。之を先生の方ではそれを氣にしないかも知れませぬ。この先生に云ふのは何事にも期待効果に云ふ事が先きになつて居る様な人々であります。その子供自身の自然生活なんて事を餘り感じない人です。兎に角く教育をして居るんだに云ふ様な場合に於て、先生は保育項目の不自然さに極めて鈍感であり勝ちです。しかも子供の方では必ず、さぞかし、感

じるであらうと思ふ。詰り田舎の人が吾々の家に來まして、さうして、水道の水を氷で冷やして出したとすれば旨いと言つて飲むでせうが、之は鐵管で運ばれた水だと言ふ事を聞いた時に興ざめるかも知れません。それと同様に、子供は保育項目を保育項目として與へられた時に、その位其處の所に妙な感じを起すのではないかと察せられるのであります。

その問題を更に進めて考へて見まするに、保育項目が本來それだけの期待効果を基にして選ばれたものであります爲に、期待効果もそれだけのものを持つて居る。それだけの保育項目がそれだけの期待効果を充分に持つて居る。ところで、それだけの期待効果を充分に持つて居る言ふ事は、その一面としては、部分的と言ひませうか、局所的と言ひませうか、或は分解的と言ひませうか、兎に角く全體的全面的ではないことであります。詰り保育項目の一つ一つは、或は注意力を養ふとか、興味力を養ふとか、何か色々の事が擧げられるのでありませうが、之は詰り局所部分的の効果であります。例へて言ひますならば、吾々が或る薬を飲むとしますれば、薬と言ふものは一々特定の期待効果を以て拵へられたものであります。薬にしてその效目無きは薬じやない。即ち彼奴の斯う云ふ所を癒してやらうと云ふのでお醫者さんが拵へられたものであります。其處で薬はそんなに上手に飲ましたつて、そんなに甘くつても期待効果が先きになつて居ると言ふ不自然さを免れません。良き薬は良き薬程、局部的な期待効果が多いのです。即ち風邪の薬、せきの薬、胃の薬、腸の薬、頭痛の薬、或は睡氣覺しの薬——只今之が最も必要の様でありますが——さう云ふものなのであります。ちゃんこ或る所を拵つて拵へたもので、萬病に效く薬と言ふものは實は藥らしくないのであります。其處で保育項目も先生が保育項目を色々な期待効果に於て工夫してねらひを付けて與へられ、ば與へられる程、その期待効果と言ふものは局部的なものになつて來る。之は免かれない事であります。

ところが、此處に幼稚園或は教育全體と言つてもいふのでありますが、殊に幼児の場合に於きまして、さうした部分的

局部的効果の外に、その子供の生活全體に及ぼす所の大きな効果を期待するこゝがあり、又さう云ふ効果を期待しなければならぬものである事は言ふ迄もないのであります。薬はそれ／＼の健康の缺陷を癒しませうけれども、薬そのものが健康全體をすつゝ増して來る言つた様な事は比較的少ないのじやないか。此頃さう云ふ廣告の出で居る薬もありますけれども、私は毎日飲んで居てもいゝ薬云ふのは薬の部には這入らないと思ふ。始終中喰^{じつぱ}べて居る云ふのは食物と薬の間様のものである云ふ様な感じが致します。さうも薬云ふものはある部分に効いて他の部分に害がある云ふのが多く、それが良い薬の持前ださうであります。他の部分に害がある云ふ様な事がないにしても全體の生活力を増して來る云ふ様な事ではない。又、他の例になります吾々が例へば散歩をしますならば、此處々々が何うなつた云ふのじやなく、健康が全體として増進する。或は非常にいゝ音楽を聞いたとしたらその音楽が耳を癒したとか腸を癒したとか言ふ事はありませんけれども、それによつて全體の生活活力が増して來れば生活効果があつたこゝと思ふ。全體的生活効果、つまり、之が保育項目に於ては見られないのであります。而も之をこそ幼稚園教育に於ては非常に大切なこゝとして居るのであります。そして、實際上この二つの點から苦心する譯であります。保育項目は實にいゝものだが、さぞかし子供には不自然的の感じを免かれないであらう。又その一つ／＼の保育項目の課題が局部的には大變にいゝ期待効果を持つて居ても、全面的効果に於ては缺けて居る。之を何うしたらいゝだらうか。斯う云ふ事が當然苦心せられて來るのであります。之を考へない人は保育項目一點張で平氣にやれる。それは幼稚園の中の藥屋さんの様な人で、子供の此處を斯うして／＼斯うして／＼斯う考へる。中にはそんな事すら考へないで、唯保育項目といふものがあるから次々にやるのさ言つてやつて居る人もありませうし、私はぎの保育項目が得意だから言つてそれ許りやつてゐる人もありませうが、それは聊か氣樂く過ぎる話で、大抵は皆所謂保育項目云ふものを期待効果で考へ、それも大切だが、幼稚園教育としては、もつ

大きな、全體的効果を期待しなければならぬことも考へ、この二つの問題を何うしようか、云ふ苦心工夫がそこに生れて來ます。その一つの結果が即ち誘導保育案であります。

(五) 誘導保育案

誘導保育案云ふものに就ては、前にも數回お話した事があると思ひます。今日もそのお話と違つた事を言ふのではない。違つた事を言ふのではないけれども、その説き方は少し違ひます。即ち今までは多く自由遊びの方から段々段々來る順序に基いて誘導保育案を説きました。自由遊びの中にある自己充實であるとか或は充實指導であるとか言ふ事の次の段階として、誘導云ふ問題を説き、さうしてその誘導、即ち自由遊びの誘導から段々熟して來たものとして誘導保育案のお話をしたのであります。それを今日は逆に行つて見ます。保育項目の方を先づ立て、保育の方を主體としてその保育項目を何うして持つて行かうか云ふ行き方として誘導保育案云ふものを見て見ませう。即ち幼稚園の保育法の全體の極く自然な考へ方としては、私は自由遊びから誘導保育案が生れて來る云ふ考が當り前だと思ひますし、又私が誘導保育案云ふものを考へ出したのもそこからだつたのです。それを今日は逆に、皆さんが保育項目を虎の子のやうにしてゐるから云ふものを考へ出したのもそこからだつたのです。それを今日逆にして、皆さんが保育項目を虎の子のやうにしてゐるから云ふものを考へ出したのもそこからだつたのです。それを今日逆にして、皆さんが保育項目を虎の子のやうにしてゐる生活にもつてゆかうか云ふ方から説いて見ます。吾々の保育案が保育案にさういふ態度をこるか云ふ問題として。

其處での期待効果に於て選ばれてゐる各種保育項目を如何にして子供の自然生活に結びつけてゆこうか。あの局部的のものをさう用ゐて、生活に全體的期待効果を實現する様にしようか、云ふ工夫です。

そこで先づ、もう一度よく子供の遊びを見る。子供が彼處でまゝごみをしてゐる。それをジツト見て居ります。その

まゝごこの中に主題がある。テーマがある。その主題を實現して來るのに色々の計畫が行はれて居る。その計畫を實行するのに色々の材料が用ひられて居る。そしてあの通り見事に遊びが楽しまれて居る。所がそれを見て居りますご、じきに止めて了ふ。じきに止めて了ふ所が子供の自由遊びの面白さであります。やり出した以上は何時間やらなきやならぬ、ご云ふのは之は講習の時でありまして、自由な生活ではない。其處でまゝごこ云ふものは何時やめてもいゝのであります。その何時やめてもいゝのをジット見て居りますご、何時やめてもいゝが、或る時までやつてゐる。しかもまたその中から吾々が強ゐて何か効果を捉へようとするご、じきに止めて了ふ。まゝごこの中から喧嘩が出る。そこに却つて家庭的情景が生きて來たごも皮肉られるかも知れませんが、實はごうぞあの平和なまゝごこ即ち家事遊びをやつて居て貰ひたい。そこで、そこを少々つくろつて、家庭遊びを主題にし、それに計畫をもう少し細かくつけてやる事したらご云ふので、そこで子供の自然の遊びの中から教へられて、誘導保育案が出來て來るのであります。ですから誘導保育案は若し極端に言ひますならば、子供が何の氣もなく唯やつて居ります自由遊びの中の各要素、主題ご計畫ご、及び期待効果ご云ふものを、自然のまゝ以上にはつきりさして來たものであるごもいへます。たゞそこで缺けてゐるのは一定の繼續時間で、之れさへ指導されゝばそれで立派な誘導保育案の特質を具へて來る。ご斯う言つていゝのであります。今日はそれを逆に言つて居るのですが、之はまゝごこから家庭遊びの誘導保育が始まつてくる自然に較べますご少うしベテン性を持つて居ります。少くも少々方法的です。即ち保育項目ご云ふ不自然なものを自然らしくする方法ごしての工夫なのです。から已むを得ません。之がごうも心苦しいごでもいふか、可笑しな氣持を免かれないのであります。くれども、一體教育方法ご云ふものは何處かに少々ベテン的なごころがあります。生活の實に自然にして眞實なるに較べるご、ごうもそうです。少くも私達の様に、教育をし乍ら生活めかしくしようと思ふご、ごうしてもそうなるのです。皆様の中で白粉を塗つて居らつ

しやる方があるか何うか。元來お白いんだらうと思ひますが、若し非常にベタ／＼塗つて居る人を見るに、私は實に正直な人だと思ひます。白粉を塗つて居る事をチャンと明らかにして居るのですから、この位正直な人はないと思ふ。所が近來の化粧法では塗つてあると見せずに塗つてありますから吾々は瞞されるのであります。それが御自分でも暑くなつて汗を拭くに地金が出ると言つた様な事もある。ですから幼稚園教育も、保育項目なんだよ。何だらうがやれ。子どもが何と思はふに、こちらの考へたものを是非やらせると言つた調子でやる。實に正直なのである……。ところが期待効果で拵へたる保育項目をやるのに、それを少しも効果を期待してはるざるが如く、自然さうに思はせてやるのでありますから、インチキミはれても仕方がない。而も又、そのベテン性を何故敢へてしてまで、私は誘導保育案を説いて來るか。自由遊びの方から説きさへすれば極く自然なのに何故保育項目の方から説くか。之にも一寸譯があるのであります。

その譯は之も私の餘計な思過ぎかと思ひますが、まあ近來御蔭様で——誰の御蔭様か知りませぬが——誘導保育案云ふものがちよい／＼行はれて參る様になつた。誠に御同慶の至りであります。ところが、誘導保育案が段々行はれて來た爲に、あのギゴチない保育項目の露骨な羅列でやつて居つたのにくらべて、幼稚園の生活が極めて自然めかしく、なだらかになつて參りました。これまここによるこばしいのですが、それを見て居て私に又別の苦勞が出て來る。それは誘導保育案の名にかくれて保育項目が留守になつてしまふ傾きのあることです。誘導保育案云ふものは保育項目に自然生活の間に挾つて居る様なもので保育項目そのものゝ期待効果を軽くして丁ひかねない。期待効果を主にして保育項目の方ではゴツ／＼やるし、誘導保育案の方では之は唯主題を與へてそれを何さなく繼續して居ればいゝんだ。さいふ風になつたりする。子供が何をしように、店遊びにさへなれば宜しうござんす。斯う言つた様な調子でやられることになる。之は實に新式誘導保育の様でありますけれども、私達はその中で折角くの保育項目を何う云ふ風に考慮されて居るか、その中に手

技が何う云ふ風に入つて居るか、店遊びへ談話が何う結び付くか、晝が何う結び付くか、斯う言つた様な保育項目のそれだけの効果に就て、聊かボヤツミして居る様な場合を感ずるのであります。其處では自由遊びの方から出て来た誘導保育案であつたミすれば、まあ之でも宜しいけれども、一體誘導保育案ミ云ふものが保育の設定計畫として立てられて居る。自然的ではあるけれどもちやんこ期待効果を持つてやつて居るものミしますならば、その中に保育項目が旨く含め入れられて居なければならぬのであります。其處で私が若し幼稚園視學になりました皆さんの幼稚園を視察する。さうするミきつミ今に倉橋が来るミ云ふので、急に誘導保育案の形態を作つて下さるかも知れない。歓迎の心持でそういふミきをやつて下さる方もあるかも知れない。「決して保育項目を保育項目ミしてやりはしませぬので、今此處に店を作つて居ります」。こいはれる。まあ誠に結構であります。私は其處で併し斯う聞くでせう。「この誘導保育計畫の中に保育項目が何う配當されて居りますか」。即ち今日今保育項目を主にして誘導保育案を説いて見て居ますのも、もう少し誘導保育案の生活形態が行はれる時に、保育項目がもう少し尊重されて来る事を進め度い譯であります。

そこでその結果ミして、誘導保育ミは各保育項目の詰合せ保育案であるミ云ふ事になつたら困る。もう少し生きて居るものでありたい。子供の方には呉れなくも項目ミ云ふ意識はなく、従つて各種期待効果でやられて居るミ云ふ意識は全く起させないでなくてはならない。誘導保育案でやつて居たら側へ行つて「何う云ふ御計畫ですか」ミ言ふ。「まあ斯うやつて店の恰好でも作つて置けば繁昌致しませう。若し賣れなくなつたら止めます」、動物園を造つていらつしやるから「何う云ふ御計畫で行きますか」「色々やらうミ思ふのですけれども一匹や二匹逃げれば逃げたで揃へます」ミ言ふ。これは餘り誘導保育の自然生活形態が主になつてその中に立案保育ミして入れて行かうミする保育項目が軽く扱はれ過ぎて居るミ云ふことになるのであります。その心配から今日は保育項目を先にして誘導保育案を考へたのです。即ち、凡ての誘導保育案

の中には保育項目がされだけちやんこ入つて居るか云ふ事が大事です。たゞ誘導的である云ふ丈では、それは誘導保育案の形、誘導の仕方であつて、保育案なる爲には保育項目がちやんこ入れられてはならずぬのであります。若し誘導保育案の形の中では、保育項目がきちんきちんきうまく周到に考へられて居ない云ふれば、これは誘導保育案の名に於てやる單なる自然遊びであります。所謂各期待効果を行き當りばつたりに收めてゆこうとするのでありまして、自由遊戯指導もちつとも變らないのであります。形はすつかり同じでも、自由遊戯指導とは別の意味に於て誘導保育案云ふものを立てたいものにまつては、そこに多少の差別をはつきりつけて置かなくてはならぬのであります。

斯う云ふ意味で誘導保育案云ふものを保育項目の方から説いて行きました、そこには二つの缺陷がある。その一つは意識的に期待効果が先になつて居るのをカモフラージュしようとするこゝであります。ぼやかして了はうとするこゝであります。それからもう一つは、この保育項目が局部的効果を主にする事になりますので、生活全體の之に効果を期待したい云ふ意味で、それは保育項目別々には別なものが與へられる。これが誘導保育案の一つの性質であります。

(六) 課程保育案

そこで誘導保育案の事その事はもう幾度もお話を致しまして私の本(幼稚園保育法真諦)にも出て居りますから、そこを又申さうとするのじやない。それよりもお話を全く別の方に轉じて参ります。

以上の譯で誘導保育案が所謂保育項目を忠實に取入れて膳立されたならば、それでもう保育案は一應片づく筈です。即ちこの保育案(「系統的保育案の實際」を示して)の書方で言ひますならば、所謂保育設定案の欄には、誘導保育案だけで後は要らないじやないか云ふ論も出ます。この保育案を御覽下さつた方の批評も澤山ありますが、その批評の中で、此の點が

多く出そです。「自由遊戯、生活訓練の他に保育設定として誘導保育を立てるこいふ意見ならば、それだけにして置くこ徹底的に新しい保育案になるではないか。殊に、誘導保育案に非常に力を入れて説いて居る以上、それで澤山じやないか。それなのに、これを見るこ、矢つ張り課程保育案の名で保育項目一つくがあるじやないか、之れは、唱歌、遊戯、談話、觀察、手技こ、まるで當り前の保育項目の羅列になつて居るじやないか。これは甚だ不徹底なやり方だ。誘導保育案の中でいゝ筈じやないか」。斯う云ふ批評をされる方がありそです。之れこそ、吾々の考をよく見ての上になさう云ふ疑を持つて下さる批評だこ思ふのであります。何故ならば若し誘導保育案が完全に、保育項目を取入れたこして、尙その上に課程保育案こ云ふものが必要だこ云ふには、充分の説明がなければならぬからです。

これに就て色々な事が理由こして擧げられるのであります、その一つは、子供は所謂生活をするこ云ふ意味に於きまして、生活者であるこ云ふ意味に於きまして、或纏りのついた生活を喜ぶ事勿論でありますがしかし又、さう云ふ生活を生活こして纏つた興味でやつて行くこ云ふ事の一方には、單なる純粹興味こ言ひますか、別に或目的の爲にまこめられてやつて行くこか、計畫こしてやつて行くこか、斯う云ふ爲に斯う云ふ材料を集めてやるこか云ふのでなくして、その一つ々々に一つ々々こして強い興味を持つ事があるのであります。これは子供がこ言ひましたが、子供許りじやない、人間全部にさう云ふ處があります。一面から申しますれば人間の生活は常に生活こして全體的計畫の中に行はれて居る。私が今朝家を出まして此處に參りました。決して此處に來る爲に來たんではなくして、此處に來てお話をする爲に來たので、ましてや家を出て街を歩く爲に來たんじやありません。吾々の忙しい日常の生活は皆譯があつてやつて居るのです。しかしまた、われくはその忙しい生活の中で散歩するのであります。何の爲こなく、何の目的でなく、たゞ歩きたくなつて來る。さう云ふ點が吾々の生活の中にあるのであります。或は又それをもう少し高尚に言ひますならば、一面には商賣こ

政治が産業が云ふ様な生活に於て、一々目的があつて目的に向つて計畫されてやつて行きますが、藝術が云ふ様な方になつて來ます。別に何うも云ふ事なくインスピレーションが出て來て、描きたさに描き、歌ひたさに歌ひ、或はたゞ文學を創作する爲に創作して居る。云ふ事は、之れ亦矢張り眞實な一つの生活の態度であります。

そこで個々の保育項目は餘りに個々的でありますから、これを全體の綜合の中に入れ込む事に依て生活の形にしようと言つて誘導保育案を作りましたが、それ許りで押詰めたら子供は政治家であり、實業家になつて了ふのであります。これを一昨日のお話に歸します。保育案の色々の中の比較の後に出ました生産保育案に對する最も手強い攻撃は、子供を餘りさう云ふ目的的生活のもに教育をする。目的から引出される興味を云ふ方に許り向つて行つて、子供の本當の生きゝした純粹興味を無視する事ではないか、子供を餘りに生産者にして仕舞つて、藝術家が云ふ様な要素を失はせるものじやないか。云ふ強い批評であります。ところで、誘導保育案が云ふものは必ずしも生産保育案ではないが、お店がある、その爲に品物を作つて並べる。云ふ事は多分に似たところをもつ。それで誘導保育案許りでは子供は満足し難い。所謂インスピレーションが何うか知りませぬが、それはそれとして純粹の單一興味でやり度い事がある。何もなく歌を歌ひ度い。何もなく遊戯がしたい。何もなく何か作り度い。さう云ふ生活の一面があるのであります。それで、それを満足させてやり度い。云ふのが、保育項目をそれ自體として保育案の中に入れて居ります一つの理由であります。

私のお話は實にぐるぐる廻つて居りました。初を言はなければ終ひまで言はなくつて済むのであります。初を言つたから終ひ迄言つて居る。そこで保育案が云ふものを立てるに就て、個々の保育項目を尊重する。さうする。斯う云ふ缺點がある。その與へ方として誘導保育案を工夫する。しかも之れだけでは生活の様式がある。この外に、それ自體の活動、或は純粹活動と言つても宜しい。これも何處かでさせる機會がなければならぬ。斯ういふ順です。

それからもう一つの理由は、誘導保育案では、所謂誘導云ふ事に重きが置かれてあつて、子供の計畫云ふ生活的の處に重きが置かれてあつて、項目への周到的な注意が軽くなる風もあります。これが可成り注意されても、起りそうなことです。誘導保育案云ふものは保育項目の部分効果以外に、全體的綜合効果を非常に期待して居るのでありますから全體の綜合効果の蔭に、個々の期待効果が押され易いのです。すなはちその綜合保育云ふ所に非常に重きが置かれてありますから、保育項目をちやんさ與へてはありまして、その保育項目一つ一つの期待効果を餘り強くやつて居る譯に行きませぬ所があるのであります。これに餘り強く力を入れるに全體効果が留守になるこいふ心配がある。そこで誘導保育案そのものの中には保育項目をきちんさ片寄らぬ様に致して置きますけれども、その保育項目の個々の期待効果をもう少し徹底させようとする爲には、これを拔出して何處かでする必要があるのであります。詰り妙な例でありますけれども、誘導保育案は一つの大きな商業の様なものであります。その商業の中の一つ々々の商品云ふものは工場で造られるのであります。そこで簡單な場合には店で造つて賣つて居る云ふ事でありませうが、賣る方が忙しくなつて來るに、部分々々云ふものはそれぐの離れた工場で單獨にやらなければいゝものは出來ない。さう云ふ意味から誘導保育案の中に入つて居る保育項目を、それをもう一度拔出して、誘導保育案の中でやつて居る傍ら、それを拔出して此方でやるのであります。此方でやります事は即ち、個々としての期待効果を徹底させよう云ふのであります。例へば誘導保育案の方でお店屋さんの看板を作るにします。色々な繪を子供が描くであります。その時に看板の繪だから何うでもいゝ云ふ譯じやないですが、看板の繪云ふものはその時の子供の興味で看板らしくなればいゝ。その繪の描き方に就て餘り八釜しく言つて居たならば、それはお店屋遊びでなく看板屋になつて了ひます。そこでその看板云ふ事をそこから拔出して來て、描き方云ふことを別に置くのであります。

この二つの理由が、一方誘導保育案を立て、居り乍ら傍ら、又一方課程保育案を立て、居る所以であります。それで課程保育案を並べてあるのです。勿論若しも非常に理想的な場合を言ひましたならば、課程保育案が誘導保育案の中につきうつミ溶込んでゐながら、而も各保育項目がきちんとミ徹底的に各期待効果を遂げ得る様に指導され、それが又更にその誘導保育が子ぎもの生活の方につきミ這入り込んで自由遊びミ一緒になつて来たならば、それこそ實に天國幼稚園、理想幼稚園は斯う云ふのを言ふのであります。けれどもそれをたゞ形だけ真似て、「見て下さいこの自然さ。この自由さを！」と言つても、中味が實はぼやつミして、折角の期待効果がちやんミ現れて來なければ全體ミしては甚だ微力なものになります。そこで効果ある保育にしようミするミ拔出して來てやらなければならぬし、全體的の形にしようミするミ効果がいゝ加減になる。そこに保育案のむづかしい問題があるのであります。

(七) 結語

そこでこの保育案を立てるに就て、若し茲に理想幼稚園の形態をするならば一筆だけで保育案が立ちます。この一本の線の中にすべての保育項目は自ら這入つて居るミ云ふ事になつて了ふ。詰り手を舉げて全體がそこに示される様な渾然たるものになるのであります。斯う云ふ事は所謂お話を元にすつかり返しまして、皆さんも、保育が實に調子がうまく行つて居る。何だか今日は自由遊びだつたかしら、訓練して居たかしら、保育項目を何うして居たかしら、そんな事を一々考へる事なく、全體ミして一つになつて了つてホーッミして一日を行はれたミ云ふ事になる事を理想ミするのであります。これは保育の實際の至境であります。けれどもその至境ミ云ふものはその時の生活の行き方如何で行くので、名人にして初めて實現するのであります。しかも、それ等を計畫して置くミ云ふ意味の保育案では、何ミか分けて行かなければなり

ません。さうして、分けては置き乍ら、一つ々々に強い線でしきられないで、分けては置き乍らずつミ連絡させて居る。但し、連絡するミ言つたつて、横にある觀念的連絡を探つて再び中心統合主義に陥らうミするのではないが、ここによつたらこれが一つになつて、この渾然たる至境に行くかも知れぬ様な竝べ方を特に作つて見るのであります。そこでこの計畫を私は系統的だミ言はうミ思ひます。系統的だミ言ふのは、自由遊び何分、それから生活訓練何分、それから誘導保育案何分ミ云ふ事で行くのじやない。出来れば、一つに纏つて了ふ事を可能ならしめる様な方針で系統保育案を立てようとするのであります。(終)

(文責在編輯部)

今月の學校放送の 幼兒の時間

九月二十二日 火曜日

童話劇 どんぐり

鈴蘭子供兒童會

九月二十九日 火曜日

童話 黒馬のお客様

檜山京子

いつの年よりも殿しい暑さがつきます。夏休みもすんで、どちらでも多事な第二保育期を皆様さそかし張り切つてお迎へのことゝ存じます。夏休みに存分にお蓄へになつた「エネルギー」によつていよゝ御活躍をなさいますことを期待してをります。

×

×

×

今夏の文部省講習、本協會主催講習何れも炎暑の最中、講師諸先生と受講者の何れも熱のあるガツチリした取組みで暑さもむしろ快い程盛なものでありました。この時の御講義を頁數の都合上全部本號に掲載出来ませんでした事は残念であります。順次に筆記をのせる筈でございます。

(編輯部)